

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801867		
法人名	有限会社 あざみ		
事業所名	グループホーム あざみ苑		
所在地	〒813-0036 福岡県福岡市東区若宮4丁目2番48号		TEL 092-663-8119
自己評価作成日	平成30年02月28日	評価結果確定日	平成30年04月02日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成30年03月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのかかわりが深く、小学校との交流会も毎年の恒例行事になっており前年度までは交流会の前に認知症高齢者について出張講座をしていたが、今年度からその時間を行政の協力を得ながら「認知症キッズサポーター養成講座」として開催することができ今後も地域への恩返しの意味も込めて継続する予定である。子供たちを通して親の世代や兄弟にも伝えてほしいと願っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市東区の市道、千早土井線に面した利便性の良い場所に、2ユニット(定員18名)のグループホーム「あざみ苑」がある。保育園や地域の子ども会、小学校との交流が定着し、今年度は行政と協働で、「認知症キッズサポーター養成講座」を開催し、認知症の啓発活動にも取り組んでいる。提携医療機関の医師による往診体制が整い、各ユニットに看護師が常勤し、介護職員と協力して24時間安心の医療体制が整い、これまでに2名の看取りを行っている。利用者の嗜好を採り入れ、職員が交代で作る美味しい食事を、利用者と職員と一緒に食べる家庭的な食事の在り方を大切に守っている。「自分の親をここで看たい・・・そう思える介護」を目指す苑長と、思いを同じくする職員が一つにまとまり、まるで大きな家族のように利用者のその人らしい暮らしに寄り添う、グループホーム「あざみ苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主となる理念の「自分の親もここで看たい そう思える介護」を職員全員が共有し実践につなげている	「わたしらしく生きる自由」から始まる7つの項目からなる理念を見やすい場所に掲示し、職員会議等の機会に理念を振り返り、共有に努めている。「自分の親もここで看たい」そう思える介護を目指し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園、小学校、中学校、子供会との交流会は毎年の恒例行事になっており、利用者様が楽しみにしているイベントである。	保育園、小・中学校、子ども会との交流は継続して行っている。今年度は、行政と協働して、認知症キッズサポーター養成講座を開催し、認知症の啓発活動にも取り組んでいる。また、日常的に近隣への買い物や散歩時に挨拶を交わし、話をする機会も多く、地域と信頼関係が築かれているホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年行っている地域の小学校との交流に加え、今年度から認知症キッズサポーターの養成講座を行政との協力のもと開催し成功したので今後も続けていく予定である		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	諸事情により運営推進会議は1回のみ開催だった。	今年度、運営推進会議は1回の開催であった。定期的にホームの状況や活動の報告を行う事や、会議の中で得られた意見や要望、情報等をサービスの向上に活かしていく事が重要である事を認識し、参加委員を募り、定期的な運営推進会議の開催を検討している。	利用者や家族、民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員等の参加を要請し、ホームの運営や取り組みを伝え、情報交換しながら、地域貢献に繋がる会議の開催(年6回)を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例の方を受け入れる際は行政と協力しながら出来る限りスムーズに入居できる様取り組んでいる	管理者は、行政窓口空き状況や事故等の報告を行い、疑問点を相談する等、情報交換しながら連携を図っている。また、行政主催の研修や行事に参加し、保護課ともやり取りして、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をはじめ「拘束」と呼ばれる行為は一切行っておらず全職員で実践している	身体拘束について、職員会議や勉強会の中で確認を行い、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、具体的な禁止行為について事例を挙げて話し合い、「身体拘束をしない・させない」ケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてのニュース等が流れると利用者様も交えて話し合ったり、ことあるごとに話題にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用している方も居るので、職員は内容や必要性等理解している	現在、制度を活用中の利用者がいるため、後見人とのやり取りを通して、制度についての理解を深めている。資料やパンフレットを用意し、必要時には利用者や家族に説明を行い、制度が活用できるよう支援に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は時間をかけて説明し、不安や疑問があればいつでも聞ける体制をとっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望は可能な限り対応し、サービスの向上に努めている	職員は利用者たくさん会話し、利用者の意見や要望を聴いている。家族については、面会時や電話連絡等で、意見や要望、心配事等を聴き取り、介護計画やホーム運営に反映させている。担当職員からの手紙と「あぞみだより」を毎月家族に送付し、家族の安心に繋げている。	以前行われていた家族会を復活し、家族同士や家族とホームの交流、親睦を図り、意見や要望を言しやすい関係作りへの取り組みを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング以外でも管理者や施設長に気軽に提案できる関係作りが出来ている	カンファレンスを兼ねたミーティングを月1回18時から開催している。2時間から3時間、時間をかけて話し合い、情報を共有し、ケアの統一を図っている。職員から出された意見や要望、気付き等については速やかに対応し、ホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの家庭の事情や体力、年齢等を考慮した労働条件を個々に定め、働きやすい職場環境づくりに努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	できるだけ個性を活かせる様な役割配分を心掛けている。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄を優先し、採用後は研修や現場での指導を受けて、介護の知識と技術の向上に努めている。職員を大切に育む苑長の考えの下、子育て中の職員への配慮等、職員一人ひとりの事情を汲んだ勤務体制を整え、職員の定着に繋げている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の人権を大切にしながら業務に取り組んでいる	利用者の人権を守る介護のあり方を理解するために、外部の人権研修に職員が交代で参加し、言葉遣いや対応に注意し、利用者の安心した暮らしの支援に取り組んでいる。また、職員は常に理念を意識し、利用者がその人らしく、主体的に生きる日々の暮らしに寄り添っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに必要なと思われる研修に参加を促している。また、率先して受講を希望する職員に対しては全職員で協力し受講できるようにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との情報交換や季節の手紙のやり取り等は継続して行っている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してしばらくはご家族と密に連絡を取り合いながら利用者が早く苑生活になじめるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること不安な事はどんな時でも耳を傾け、出来るだけ早く解消できる様努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人はもちろん家族が必要とする支援を理解しその実現に向けて柔軟な対応をしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的には「出来ない事への支援」とし、職員と利用者が生活を共にする環境だと理解を求めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員での対応が困難な場合は家族に協力していただきながら共に本人を支えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や家族との外出等は制限することなくなじみの関係が途切れない支援に努めている	家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、職員は笑顔で挨拶を徹底して、訪ねやすい雰囲気作りを心掛けている。職員は利用者の馴染みの関係を把握し、行きつけの理・美容院への同行や、家族の協力を得ての病院受診等、利用者の馴染みの関係継続に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士会話がしやすい様に席替えをしたり、孤立しない様にこまめな声掛けをして利用者が不安なく過ごせる様努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も季節のお手紙のやり取りは欠かさず行い、必要に応じて対応している。入居当時実家のように感じて下さっていたご家族は退居後も遊びに来たいと言ってくださっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思を表現できない利用者に関しても職員全員で話し合い、本人本位で暮らせる様努めている	職員は、利用者との日常の関わりの中で、思いや意向を把握し、職員間で情報を共有して実践に繋げている。意向表出の困難な利用者には、家族と相談し、職員間で話し合い、利用者の様子から本人の思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者それぞれの入居前の情報は職員全員で共有し、苑生活に活かせることが出来るよう努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの状態を観察しながら無理なく生活できる様配慮している		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態に合わせた介護計画を担当者を中心に職員全員で定期的に見直し実践している	利用者や家族の希望を聴き取り、カンファレンスで職員の意見や気づきを出し合って話し合い、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化があった場合には、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや利用者の変化等は申し送りノートを活用し、情報共有に努めている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に必要な様々な事を家族に代わって行うこともあり、苑内のサービスだけにとどまっていない		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子どもたちとの交流会は利用者全員が楽しみにしているので途絶える事の無いよう関係者との関係作りを継続して行っている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間連携体制のクリニックとの情報共有で利用者の健康管理を行っている。また、専門医の受診は基本家族にお願いしているが、必要であれば職員も同行し専門医との連携にも努めている	隔週毎に往診の協力医療機関と病院の看護師、ホームの看護職員(ユニット毎に1名)、週1回の訪問看護との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。現在は、利用者全員がホーム提携医を主治医としている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関する事以外も必要に応じて職場内の看護師やクリニックに気軽に相談し利用者の健康管理に努めている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は出来る限りお見舞いに行き、安心感が得られるよう努めている。また、各医療機関の地域連携室とは持ちつ持たれつの関係作りが出来ている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関しての説明をするが、実際にその時を迎えたら、苑とクリニックが出来事出来ない事等を細かく説明し十分に納得していただいたうえで看取り介護をさせていただいている。	契約時に、重度化や終末期に向けたホームの方針について説明し、利用者や家族の希望を聴いている。利用者の重度化に伴い、家族や主治医と常に連絡を取りながら方針を確認し、安心して最期まで過ごせる支援体制を整えている。これまでに2名の利用者の看取り支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の連絡先や手順等は全ての職員が把握しており実践している		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回の避難訓練は近隣商店や住民を巻き込んで行っている	地域の方の協力と消防署の指導(年1回)を得て、昼夜想定避難訓練を年3回実施している。通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所の確認を行い、利用者が安全に避難出来るように取り組んでいる。また、災害時に備え、非常食を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いになりがちな排泄の声掛け等も周りの利用者に配慮するよう努めている	利用者の人格を尊重し、プライバシーを守る介護について、職員会議の中で話し合い、職員は、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮し、利用者のプライドや羞恥心を大切に介護サービスに努めている。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても周知を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る利用者に関しては思いや希望をまず本人に確認している。できない利用者は本人本位で考えている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り利用者それぞれのペースを大切に支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択ができる利用者は本人が選んだものを優先している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を利用者と話しながら決める事も多く、イベントメニューは食事形態が違って同じように楽しめるよう工夫している	利用者の嗜好を聴きながら、ユニット毎に献立を考え、職員が交代で作る美味しい食事を提供している。利用者と職員がテーブルを囲んで座り、談笑しながら同じ食事を食べる家庭的な食事の時間である。また、利用者の状態に合わせた食事形態での提供や好き嫌いへの配慮を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食べる量や食事形態は全職員が把握しており、それぞれが美味しく楽しく食事が出るよう支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず行っており、利用者の能力に応じた口腔ケアの方法を全職員が把握している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	認知症の進行やADLの変化に応じてオムツの種類を業者を巻き込みサンプル等を利用しながら全職員で検討している。	重度化してもトイレで排泄する事を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンを把握して、タイミングを見て声掛けや誘導を行い、利用者の負担をなるべく減らせるように試行錯誤しながら、排泄の支援を行っている。また、夜間は安眠重視で、パットを併用する等してゆっくり休めるよう配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多く摂れるような食事の提供や水分量のチェックを日々心掛けている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けのタイミングや着替えの準備は利用者に応じて工夫している	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して、香りの良い入浴剤を入れる等、入浴が楽しめるように工夫しながら支援している。入浴を拒む利用者には、時間を変更したり、職員が交代して声掛けする等して、無理強いのない支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠はとても大切にしており、おむつ交換等で安眠を妨害しない様に工夫したり寝返りが打てない方にエアマットを使用する等して支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が変更になった時は申し送りノートで情報を共有し、疑問に感じることは薬剤師に尋ねて利用者の状態観察に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵を描く趣味がある利用者の作品は廊下に展示して苑内外の方に楽しんでいただいている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑内を歩き回って落ち着かない利用者や近所のお店に散歩がてら買い物に行ったり、専門医受診の後、海を見るために遠回りしたり、町内の理髪店に協力してもらい、行き帰り以外は職員以外の方と過ごす時間を作ったりと努力している	利用者と一緒に近所のお店に特売の卵を買いに出かけたり、病院受診のついでにドライブしたり、家族と一緒に外食に出かける等、利用者の気分転換を図っている。また、利用者の体調に配慮しながら、弁当を作って花見やドライブに出かける等、季節を感じる事の出来る外出支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金がない事はとても不安に感じると思うが、利用者同士のトラブルを避けるためにも現金は全てお預かりしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の制限は特にしておらず、本人が希望すれば全力で支援する		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの温度や湿度は特に気を使っており快適に過ごせる様努めている。また、排せつ物の匂いは消臭スプレー等を利用し居心地よい空間づくりを心掛けている	利用者の動線に配慮して整理整頓を行い、清掃に力を入れて取り組み、臭いや採光、音・温度・湿度に注意しながら、利用者が快適に暮らせる共用空間作りに取り組んでいる。また、季節の生花を飾り、利用者の似顔絵や笑顔の写真、小物を飾り、生活感や季節感を大切に温かみのある環境である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で楽しくかつ他の方の迷惑にならないような席順の配慮や、居室で一人で過ごされる時の室温等に気を付けている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に持ち込むものは新調せずに使い慣れた物をお願いしている。	利用者が使い慣れた身の回りの物や大切な物を、家族の協力を持ち込んでもらい、安心して過ごせるよう工夫している。また、こまめに換気や掃除を行う事で、利用者が気持ちよく過ごせるよう、取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の表示は大きくわかりやすい様にしている。また、居室の表札も利用者の目の高さになる位置にしている。		